

教育支援のためのFDワークショップ(第6回) ～授業デザインワークショップ④～

日時：2008年11月28日(金曜) 13:00～15:00

場所：全学共通教育棟 822教室

授業をデザインしていくにあたり、さまざまな工夫を取り入れている学内外の授業事例について紹介し、それらの事例に学び、互いに授業内容を高めていくための意見交換をする場として、授業デザインワークショップを開催してきました。

第4回目となる今回の前半第1部では、大学教育研究センターの大久保敦先生から事例提供をいただき、**多人数でも実習や演習をおこなう授業デザインのあり方や可能性について検討したい**と思います。また、後半第2部では、多人数授業の際に学生の意見や反応を確認するために有効なツールである「クリッカー」についてのデモもおこなわれます。みなさまには、お忙しいなかではありますが、ふるってご参加ください。

【第1部】13:00～14:30

多人数に対応した授業をデザインする

－200名を越える学生を対象とした野外観察授業の開発と実践－

事例提供者：大久保 敦(大学教育研究センター)

【第1部内容骨子】

近年、小中高等学校では自然体験や観察・実験の機会が減少しています。実際、本学の入学者を調査(数学・理科基礎調査)したところ、観察・実験の経験不足、あるいは理科履修科目、特に自然史科学に関係する生物Ⅱ、地学Ⅰ・Ⅱの履修率が低いことが認められました。そこで、今後の本学における全学共通教育を考えた場合、このような現状をふまえた自然科学的教養の確立、および自然体験や観察・実験を積極的に導入した授業プログラムの開発が望まれます。

発表では、多人数授業が避けがたい全学共通教育の実状を考慮し、200名を越える人数に対応した野外観察実習授業の開発とその授業実践事例を紹介します。なお、開発に当たっては次のことをねらいとしました。

- ・講義形式の授業に野外観察を導入すること
- ・多人数(200名以上)を克服すること
- ・「教え込み型」授業から「参加型」授業へ転換すること
- ・楽しさ、興味・関心など情意面での充実感、動機付けの育成を重視すること
- ・高校生物未履修者にも親しみやすくすること

【第2部】14:30～15:00

クリッカー(授業応答システム)のデモンストレーション

(株)KEEPAD JAPAN

【第2部内容骨子】

授業応答システムは、多人数の講義においても学生参加型の授業を展開したり、学生の理解度を確認しながら授業を進めたりするためのツールです。米国では非常に普及しており、日本の大学でも取り入れる大学が増えています。大学教育学会などでも研究発表がされています。実物を見て本学での利用可能性を検討するために、デモンストレーションを実施することにしました。

※なお、当日参加も歓迎いたしますが、ご参加いただける場合、会場や資料準備の都合上、できれば11月26日(水)までに、大学教育研究センター(center@rdhe.osaka-cu.ac.jp)宛に、ご所属とお名前・ご連絡先をご連絡ください。

以上

主催：大学教育研究センター

【コーディネーター：【第1部】飯吉弘子
【第2部】西垣順子】